

中期計画 2016 - 2020

メディアセンターは、ここに掲げた将来像の実現を目指し、適正な保存スペース、利用施設、および財源の確保を常に意識しながら、以下の3つの領域の指針に従って事業計画を具体化し実行する。個々の計画の実施をより堅固なものにするためには、適切な図書館情報システムの選択が重要な課題となる。同時に施策の効果を最大限に発揮するために、絶えざる人材育成、適切な人員配置、無駄の無い組織づくり、塾内外との業務連携等に配慮し、効率的な運用体制の維持に注力しなければならない。そして義塾の国際展開をも視野に入れ、世界をリードする学塾に相応しい図書館を目指す。

領域1 蔵書

1. 学術情報流通の変化、利用動向を常に把握し、適切な媒体での資料収集に加え、既存蔵書を評価し最適な蔵書構成、および資料配置を目指す。
2. 研究および医療活動を支える環境の維持、発展を確保できるよう、電子資源契約を学内の合意を取りながら慎重に進める。
3. 分担収集や共同保存について、塾内のみならず塾外機関との連携をも目指す。
4. 慶應義塾が所蔵する特色あるコレクションを発展、充実させ、公開を進める。
5. 慶應義塾の学術成果の機関リポジトリへの搭載を拡充し、情報発信を強化する。

領域2 教育支援

1. 自ら考え、課題を解決する力を養う学習や教育を支援するための資料を収集、保存し、最適な利用環境を提供する。
2. 多種多様な資料から効率的かつ効果的に情報を検索し、適切に活用できる知識や技術を獲得できるよう人的支援を強化する。
3. 留学生、生涯学習者、障がいのある学生など学習者の多様性に配慮し、変化する教育内容や教育方法にも対応できるよう蔵書、施設、および人的支援の充実を図る。
4. 安全で安心であるとともに、多様な学習スタイルに対応できるよう館内環境を整備する。

領域3 研究支援

1. 卓越した研究および医療活動のために必要な資料を収集、保存し、最適な利用環境を提供する。
2. 研究成果のオープン化を進めるために、塾内外の関係者との連携を強化し、研究成果の発信を支援する。
3. 世界の研究動向や義塾の研究状況を把握し、関係部門に情報を提供する。また、研究活動にとって有効な最新の技術動向を調査、検証し、図書館サービスとして提供する。